

ダリア切り花の日持ち性向上対策技術

熊谷千敏

(福島県農業総合センター)

Improvement method for vase life extension of Dahlia cut flowers

Chisato KUMAGAI

(Fukushima Agricultural Technology Centre)

1 はじめに

ダリアは多彩な花型と豊富な花色が注目され、生産・消費が拡大しているが、日持ちが短いという特徴があり、その日持ち性の向上が求められている。また、需要の多い大輪系品種は、通常の切り前では輸送時に花卉が傷みやすいことが課題となっており、より早い時期に収穫し(以下、早切り)出荷することによる花卉傷み防止対策が望まれている。しかし、早切りすると花卉の展開が不十分となる恐れがあるため、開花促進技術が求められている。切り花の開花促進や日持ち延長には糖の吸液処理が有効であり¹⁾、特にスクロースでその効果が高いことを確認している。また、ベンジルアミノプリン(以下、BA)製剤を散布することにより日持ちが延長することが明らかになっている²⁾。本研究では早切りしたダリア切り花の開花促進に適した糖濃度、およびBA製剤の散布回数を検討した。

2 試験方法

(1) 供試品種 ‘黒蝶’

(2) 試験内容

1) 調製方法 福島県農業総合センター内露地ほ場およびガラス温室内で収穫後、直ちに葉をすべて落として50cmに調製し、水道水で水揚げを行った。

2) 試験環境

a. 試験場所 福島県農業総合センター内日持ち試験室

b. 温度 23℃

c. 相対湿度 60~80%

d. 光 蛍光灯による $10 \mu \text{mol} \cdot \text{m}^{-2} \cdot \text{s}^{-1}$ 以上の12時間照明

3) 試験区

a. 試験1 早切り出荷に適したスクロース濃度

区	スクロース濃度(%)
1	0%
2	2%
3	4%
4	8%

試験溶液は蒸留水に抗菌剤(クリザールバケツト(クリザールジャパン)500倍希釈)とスクロースを試験条件の濃度となるように調製した。試験方法は試験溶液500mlを入れた1L容ポリピンに切り花1本を挿して吸液させた。

試験開始日は8月8日、8月13日、8月23日

(収穫日と同日)とした。

切り前は外側花卉1列が90°以上展開した状態。調査項目は催花日数(試験開始(外側花卉1列展開)から鑑賞適期到達(外側花卉5列が90°以上展開)時まで)とした。調査本数は1区3~4本、3反復とした。

b. 試験2 切り花の切り前とBA製剤の散布回数が日持ち性向上に及ぼす影響

切り前	BA製剤散布回数(回)
花卉着色未展開(0列)	0
外側花卉1列展開(1列) ×	1(収穫調製時)
外側花卉3列展開(3列)	2(収穫調製時+観賞適期到達時)

試験溶液は生け水は蒸留水に抗菌剤(クリザールバケツト(クリザール・ジャパン)500倍希釈)とスクロースを2%となるように調製した。試験方法は吸液処理については試験1と同様、BA製剤の散布はミラクルミスト(クリザール・ジャパン)の500倍希釈液を霧吹きで頭花の表裏に5mLずつ散布した。試験開始日 10月3日、10月13日(収穫日と同日)。調査項目は催花日数および観賞可能期間(観賞適期到達時から日持ち終了まで)とし、以下の3つのうちいずれかが生じた時点で日持ち終了とした。

①頭花全体の舌状花卉のうち50%が萎縮または褐変する

②花首が折れる

③切り口が軟腐する

調査本数は1区5本。

3 試験結果及び考察

(1) 試験1

1) 観賞適期到達時にはスクロース添加区(2, 4, 8%)では、ほ場で開花したサンプルと同程度の花色および花卉展開であったが、0%区では花色が薄く、花卉展開も不十分となった(図1)。

2) 0%区と比較し、スクロース添加区で催花日数が1.1~1.6日短縮し、特に2, 4%区で有意に短縮した(表1)。

(2) 試験2

1) いずれの試験区でも観賞適期状態まで催花可能だった。催花日数は切り前が早いほど長くなり、BA製剤散布の影響は確認されなかった。

2) 鑑賞可能日数はBA製剤の散布により延長す

る傾向が見られ、切り前にかかわらず2回散布区で7日以上の日持ちを維持できた(表2)。

達時に BA 製剤を散布することで、日持ちを7日以上とすることが可能であることを明らかにした。

4 まとめ

早切りしたダリア切り花の開花促進に適した生け水中のスクロース濃度、およびBA製剤の散布回数を検討した。その結果、スクロースを2~4%添加することで開花が促進した。またBA製剤の散布により日持ちが延長する傾向が見られ、収穫調製時および観賞適期到

引用文献

- 1)市村一雄. 2011. 切り花の品質保持. 筑波書房. p. 79.
- 2)仲照史, 辻本直樹, 虎太有里, 湯本弘子, 東明音. 2014. BA製剤と糖処理がダリア切り花の日持ち性と品質に及ぼす影響. 園学研. (別)1: 417.



図1 スクロース濃度の違いがダリア切り花の花弁展開に及ぼす影響
(左から0%、2%、4%、8%、観賞適期到達日時点)

表1 スクロース濃度の違いがダリア切り花の催花日数に及ぼす影響

試験区	催花日数(日)
0%	4.7 ± 1.2 a
2%	3.1 ± 1.2 b
4%	3.3 ± 0.9 b
8%	3.6 ± 1.6 ab

異なる文字間には5%で有意差あり
(Tukey-Cramer 法)

表2 早切り程度とBA製剤散布回数が催花日数及び日持ちに及ぼす影響

試験区	観賞可能期間(日)
0列0回	5.4 ± 1.6 a
0列1回	6.2 ± 0.7 ab
0列2回	7.4 ± 1.4 ab
1列0回	5.6 ± 0.5 ab
1列1回	6.2 ± 0.7 ab
1列2回	7.6 ± 1.0 ab
3列0回	6.0 ± 2.1 ab
3列1回	8.2 ± 1.5 b
3列2回	8.0 ± 1.1 ab

異なる文字間には10%で有意差あり(Tukey-Cramer 法)